埼玉県北本市ガイドマップ
kitamoto city guide map

台地と泉にはぐくまれた自然とくらし

縄文のぬくもりを感じる

北本市は東京ドームの3.5倍という広さのなかに、約2万年前の旧石器時代にはじまり、縄文時代から弥生、古墳、奈良・平安時代に至る遺跡など、さまざまな時代が台地に刻まれています。大宮遺跡時代の集落跡などから、当時の「縄文都市」と言える様子です。

歴史をつなぐ道と川をたどる

[illegible]の昔から[illegible]が行き[illegible]、町並み[illegible]、[illegible]の北本の骨格[illegible]ができあがって[illegible]ます。[illegible]武[illegible]を抜けた道を[illegible]みましょう。

北本市は関東平野の中に浮かぶ、大宮台地という高台に広がっています。一見、平坦な市内ですが、西部には谷津（やつ）が台地を浸食し、眼下には荒川が流れています。こうした台地の自然を舞台に、太古の昔から人々がくらし、さまざまな文化が育まれてきました。

大宮台地の最高地点にあるまち

大宮台地は約35kmの南北に長い台地で、標高は平均で15mほど。けれども、市内の標高は20mをゆうに超えていて、高尾地区の阿弥陀堂あたりは、33mと最高地点になっています。そもそも高尾という地名も、「タコウ」という土地の高い場所を意味しているとか。
このため、台地という高台に守られた市内は、昔から西を流れる荒川の洪水や、地震の被害が少ない、とても安全で安心な土地柄なのです。

谷津からはじまる自然と文化

市内の西部には、台地をきざむ枝状の谷津（やつ）が起伏のある地形をつくっています。谷の奥ではコンコンと泉が湧き、その周囲には古代人のくらしの跡が遺跡として残されています。当時の人々の生活にとって、何よりも大切なものが水であったことの証です。

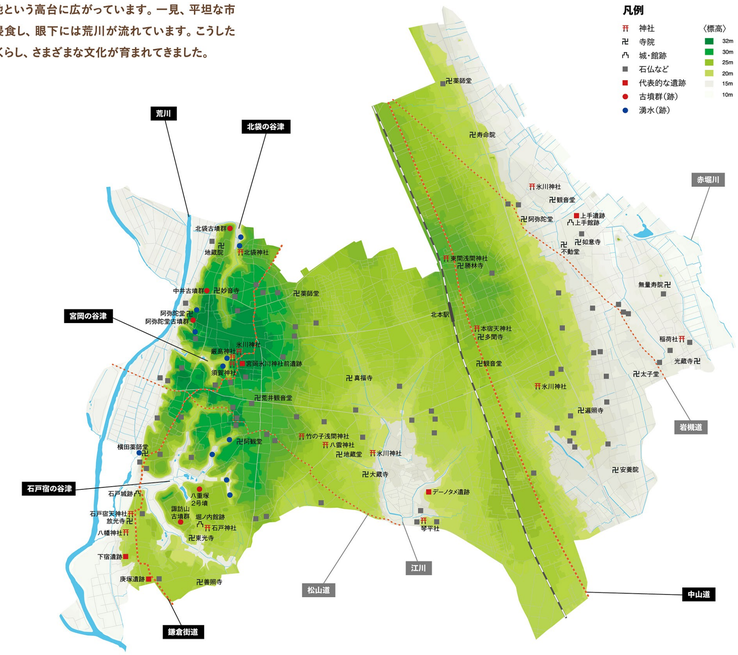
たとえば、縄文時代のデーノタメ遺跡や宮岡氷川神社前遺跡では、豊かな湧水のまわりにムラが広がっています。市内の歴史は谷津の泉からはじまったのです。

となりに里山のあるくらし

高度成長期までの北本は、里山そのもののまちでした。台地上には雑木林と麦畑が広がり、谷津の田んぼではツミタという風変わりな稲作が行われていたのです。

その後、都心のベッドタウンになると、雑木林は切られて宅地となり、谷津は埋め立てられていました。

それでも、今もくらしの隣に残る雑木林や谷津の自然は、このまちで暮らす皆の憩いの場であり、さまざまな動植物と共生する、とても貴重な宝物なのです。



泉を囲む「関東最大級」のムラ

雑木林の下から縄文時代中期のムラの跡が姿をあらわした

赤い塗をぬった土器。足元の遺跡に漆の文化が眠っていた

市南部の下石戸地区にあるデーノタメ遺跡［H10］は、「関東最大級」といわれる縄文時代のムラのあと。この遺跡は、今からおよそ5,000年前にはじまり、約1,500年もの間、縄文人がくらしていました。遺跡の特徴は、縄文人が利用していた水辺の空間が、台地の下に真空パックされていること。生活面が地下水に守られ、ふつうでは失われてしまう樹木や植物のタネや実、塗をぬった色あざやかな土器が、そのままの姿で出土したのです。それはまさに縄文のタイムカプセル。このため、縄文人がどんな植物を栽培し、何を食べていたのかという「縄文の食卓」や、漆の利用など「縄文の技術」をうかがわせるデータが豊富で、今や学会も注目する遺跡となっているのです。

縄文のタイムカプセルは豊富な湧水に守られてきた

縄文時代はSDGsの原点だ

デーノタメ遺跡の調査で明らかになってきたのは、縄文人が積極的に植生の管理をしていたこと。ムラの周囲には食料や木材となるクリをはじめ、クルミ、トチノキの林が広がり、ヤマブドウやサルナシなどのベリー類を利用していました。わたしたちになじみの深いダイズやアズキも栽培していて、もしかしたら納豆を食べていた可能性もあるのです。クルミの殻を捨てたクルミ塚では、彼らが食べた実やクルミをかたどった儀礼の道具がみつかっています。神々に豊かな恵みを祈った痕跡です。縄文人は自然と共生し、資源を循環させ、平和な社会を1万年以上も持続させていました。縄文時代こそはSDGsの原点なのです。

クルミ塚は縄文人の食卓を知る貴重な情報源

縄文のムラは森の中にひっそりと残されてきた

ヒスイ製大珠

クルミ形土製品

中世のおもかげをたどる

市の西部を通るのが鎌倉街道とつたわる道で、沿道には鎌倉武士の館跡や寺院が点在しています。石戸宿の東光寺［C11］は、国の天然記念物「石戸蒲ザクラ」と源範頼伝説のある寺として知られていますが、周囲は石戸氏という武士の館が構えられていました。「いざ、鎌倉」の際には、ここから源頼朝のもとへとはせ参じたのです。また、「宿並三十六軒」といわれる石戸宿は、古い街並みで、その北側には戦国期に石戸城が築かれ、一時、あの上杉謙信が城主となっています。その後、付近には「御茶屋」という徳川将軍の休憩所が設けられ、家康の鷹狩の際に利用されました。石戸宿は中世の雰囲気を今に残しているのです。

蒲ザクラの根元に伝わる範頼の石塔

石戸城は西・北・東を崖に囲まれ守りが固い

中山道と荒川の往来

江戸から京都まで六十九次の中山道は、大宮台地を背骨のように通っていて、江戸時代の初期までは、市内に宿場がおかれていました。宿が鴻巣に移されると、跡地は元鴻巣村、本宿村と呼ばれ、2か所に立場（休憩所）がおかれるようになります。

江戸時代を通じて最も栄えたのは、荒川に設けられた高尾河岸［C7］です。河岸場では年貢米が積み出され、日に何そうもの船が江戸を往復していました。河岸場にはさまざまな店が立ち並び、地元では「しょう（宿）がなかったら高尾へ行け」といい、困ったことがあると河岸に行けば用が足りたといいます。明治期に鉄道が開通すると、輸送の中心は、船から鉄道へと変わっていったのです。

川面がけむる夕暮れ時の高尾河岸跡

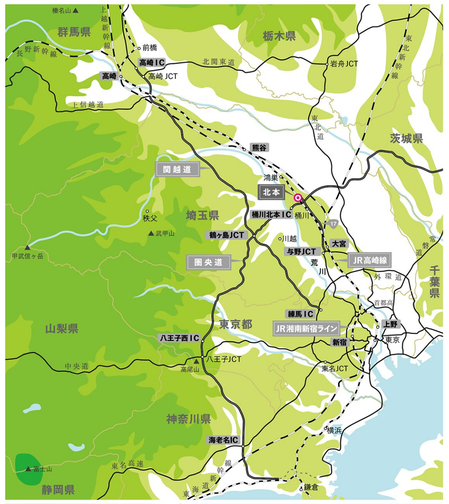
河岸場付近に立つ水難除けの水神様

北本の地名のおこり

江戸時代の市域は、石戸領と鴻巣領に分かれ、14の村がありました。その一つが、かつて中山道の宿場であった本宿村です。明治22年（1889）になると、本宿村は他の村とともに中丸村となり、さらに、昭和18年（1943）には中丸村と石戸村が合併して北本宿村※となります。その後、昭和34年に町制がしかれると「宿」を除いて「北本町」が誕生しました。つまり「北本」は新しい地名なのです。
※ 北本宿は南元宿（現さいたま市）に対する地名です。

「中山道分間延絵図」東京国立博物館蔵

Information



北本市へのアクセス

電車で	上野から	JR高崎線で約45分
	新宿から	JR湘南新宿ライン（高崎線直通）で約50分
	大宮・熊谷から	JR高崎線で約20分
	高崎から	JR高崎線で約60分
車で	八王子西ICから	圏央道（首都圏中央連絡自動車道）→桶川北本ICまで約40分
	海老名ICから	圏央道（首都圏中央連絡自動車道）→桶川北本ICまで約60分
	練馬ICから	関越自動車道→鶴ヶ島JCT→圏央道→桶川北本ICまで約30分
	高崎ICから	関越自動車道→鶴ヶ島JCT→圏央道→桶川北本ICまで約50分
	与野JCTから	国道17号→北本市内まで約30分

平成23年3月発行　令和4年3月改訂　　編集・発行　北本市　市長公室
埼玉県北本市本町1丁目111番地　TEL 048-591-1111　FAX 048-592-5997　https://www.city.kitamoto.lg.jp/

きたもと森林セラピーへようこそ
forest therapy in kitamoto

市内に残る雑木林や里山。荒川周辺に広がる豊かな森。
北本は都心からわずか1時間半で来られる「みどりのまち」。たくさんの生き物が暮らす、本格的なセラピーロードの森林浴と、森林アクティビティを組み合わせて「あなただけの旅」へ。

市全域が埼玉県初の森林セラピー基地として認定
セラピーガイドとめぐる森林ツアー

きたもと森林セラピーでは、ガイドが一緒に森の中を歩き、季節の素敵なポイントをご案内します。森林ヨガツアーや紅葉を味わうクラフトツアー、桜めぐりウォークなど、季節ごとのセラピーツアーを開催。オリジナルツアーもお問合せ下さい。

お申し込みはこちら▶▶▶北本市観光協会　tel:048-591-1473
きたもと森林セラピー公式WEBサイト　http://kitamoto-forest-therapy.com/

©埼玉県自然学習センター

生きもの観察ツアーが人気の自然公園
北本自然観察公園／埼玉県自然学習センター［C10］

2つの森林セラピーロードのある北本自然観察公園は、昔ながらの「里山」の自然を残した県営公園です。33ヘクタールの広さの園内には貴重な野生の動植物が暮らしており、ビジターセンターがあります。
※開館時間や休館日はホームページからご確認下さい。

お昼には北本野菜たっぷりのセラピー弁当

森の中でゆっくりと深呼吸をする
ゴロンと寝転ぶ
木のにおい
森林ウォークへ出かけよう

手ぶらでアウトドアを楽しもう
サンアメニティ北本
キャンプフィールド［C8］

手軽にBBQやキャンプなどが体験でき、荒川エリアの拠点となるアウトドア施設。キャンプサイトやバンガローがあり、手ぶらでキャンプが体験できる。

&green COLUMN
自然の遊び場「雑木林」

北本には、農家が堆肥となる落ち葉や薪をとるための、昔ながらの場所「雑木林」が残されています。昆虫や野鳥・タヌキなど、様々な生き物の住処としても貴重な林。北本市では約30年前から、市民団体「北本雑木林の会」が保全活用を行い、自然観察会や、親子のアソビ バ「プレーパーク」が開催されています。多様な学びの場である雑木林は、未来へ残したい北本の財産です。

子供公園［C11］

桜色に染まるまち
歩いてめぐる小さな旅　sakura & trip

荒川周辺の自然エリアには、たくさんの桜の名所があり、歩いてめぐるのがおすすめ。市内で見られる桜の種類は30種類以上と豊富で、まちかどや堤に植えられた桜は、地域で大切に守り育てられてきました。桜をつなぐウォーキングコースを歩きながら、お花見ショートトリップに出かけましょう。

きたもと桜めぐりマップ

芝生でのんびりお花見したい
高尾さくら公園［C7］

北本市民のふるさとから寄贈された桜の植わる、全国でも珍しい桜尽くしの公園です。園内には30種220本ほどの桜が植えられています。11月にフユザクラが咲き始め、3月初旬にはカンザクラが公園を彩り、4月の初旬にはソメイヨシノやヤマザクラが咲き乱れます。毎年4月上旬に開催される「さくらまつり」は、北本の春を代表する祭りです。

園内には緑色に咲く桜など珍しい樹も多い

花弁は色が白く小ぶりで古桜のみが持つ味わい

日本五大ザクラ
石戸蒲ザクラ［C11］

北本の桜を象徴する名木が、国指定天然記念物で樹齢800年を誇る「石戸蒲ザクラ」です。「蒲ザクラ」の名前は、源頼朝の弟で「蒲冠者（かばのかじゃ）」と呼ばれた、源範頼にまつわる伝説に由来します。樹種は「エドヒガン」と「ヤマザクラ」の自然雑種で「カバザクラ」。自生する樹としては、世界に一本だけの桜です。ソメイヨシノよりも数日遅れて開花します。可憐に咲く姿を楽しみに、毎年3万人もの人が訪れます。

&greenCALENDAR　季節を彩るイベント

4月　さくらまつり　上旬　高尾さくら公園［C7］
様々な特産品などが販売され、大勢の人でにぎわう。
4月　みどりのフェスティバル　昭和の日　子供公園［C11］
みどりとウォークラリー、農産物の販売などが行われる。
11月　北本まつり「育まつり/産業まつり　第1土曜・日曜日
西中央通り［F,G,H7］/北本市役所駐車場［H8］
初日の「育まつり」では、伝統のお囃子と、勇壮な「範頼ねぶた」が通りを練り歩く。翌日の「産業まつり」では、市内特産品が販売される。
11月　あきまつり　上旬　北本総合公園［M5］
ヨサコイソーランや様々な催し、特産品・グルメ販売など盛りだくさん。

トマトのうまみたっぷり！ 北本トマトカレー

北本は大正時代からトマトを栽培するトマトの名産地。「北本トマトカレー」は、トマトのおいしさを知り尽くした北本市だからこそ生まれた、ご当地カレーです。ライス・ルウ・トッピングにトマトを使用した、トマト尽くしの赤いカレーが、市内の提供店で味わえます。2019年の「全国ご当地カレーグランプリ」での優勝など、有名ご当地カレーイベントでグランプリを獲得。優勝レシピを再現したレトルトカレーはお土産にもおすすめ。

&green food
みどりのまちの、やさしいたべもの

暮らしの隣から食卓へ

北本では、まちと農家が一体となって地域ブランドの創出に取組んでいます。暮らしの隣に畑があるから、いつでも採れたての野菜が楽しめる。北本ならではの野菜の楽しみ。市内農産物や加工品を「&greenfood」という愛称で、その魅力を発信しています。

&greenfoodはここで買おう
きたもと「四季の恵み」マルシェ［J2］
朝から新鮮野菜が並ぶ直売所。CAFEでは北本野菜の焼き菓子やデザートも美味。

&greenはあなたらしい暮らしを応援する合言葉

北本　アンドグリーン

北本では、地域の魅力を見つけ、皆でシェアしながら自分のまちが好きになる、シティプロモーションに取組んでいます。マーケットや収穫体験イベント等の情報は、こちらのWEBサイトや公式LINEから。

緑と深める 北本発のローカルメディア
「&green」https://andgreen-kitamoto.com/
北本市公式シティプロモーション公式LINE
「&green fanclub」https://page.line.me/633qceko?openQrModal=true